

三隅伝 いにしえからの叫び
～三隅氏が輝いていた中世の歴史を語り継ごう～

浜田市立三隅公民館

1 浜田市立三隅公民館の概要

三隅町は北西に日本海、南東に中国山地、中央に三隅川が流れ、山・川・海と三拍子そろった自然条件に恵まれている。三隅地区は、三隅町の中心地域にあり、集落数 21、世帯数 896、人口 2,108 人、高齢化率 32.2%であり、平成 20 年に倒木した海老谷桜、梅林やつつじで有名な三隅公園がある。三隅公民館は、平成 9 年に閉校した旧三隅小学校の跡地に建ち、運動場と体育館は当時のままを使用している。また、三隅保健センターと三隅図書室を併設する複合施設であり、福祉と教育の役割を担っている。

2 事業の概要

(1) はじめに

①実証事業名 三隅氏復活プロジェクト

②実証事業のテーマ

三隅伝 いにしえからの叫び

～三隅氏が輝いていた中世の歴史を語り継ごう～

③実証事業のねらい

【地域課題】

ア 三隅地区には、4つの地域と小中学校・専門学校・児童養護施設があるが、自治会をつなぐ連絡協議会等が存在しないため、地域の連携が取れず地区のまとまりに欠ける。

イ 三隅町の歴史を紐解けば、中世・南北朝三隅氏の時代へさかのぼる。三隅氏は、激動の中世において、難攻不落の“高城”（三隅城）を築き、時の幕府・足利尊氏と直接戦うほどの大勢力であった。

高城は、平成の今に至るまで、三隅町民にとって心のシンボルである。三隅小学校も遠足といえば高城登山であった。三隅町内4つの小学校の交流陸上大会は、高城大会といい、今年度で64回目となる。

しかし現在の高城山は、倒木等で手を加えなければ登ることが難しくなり、小学校も現在は遠足のコースとして利用していない。中学生以下の子ども達は、高城山の場所も意味も知らないという現状である。

【ねらい】

“三隅氏復活プロジェクト”に取り組むことにより、自治会や世代間の枠を越え、三隅地区全体で地域課題に取り組もう！という熱い想いを共有し、子ども達に地区の宝である高城を残す。また、三隅氏が輝いていた中世の歴史を語り継ぐことにより、将来三隅を離れても、心のふるさととして伝えていき、いつの日かまた、三隅に戻ってくることを期待したい。そして、このプロジェクトを通して、人づくり・まちづくりを

目指した地域力の醸成へとつなげることとする。

(2) 具体的な取組（内容、活動状況 等）

①高城（三隅城）の整備 … <体験活動としての位置づけ>

三隅地区全体からボランティアを募り、特に三隅公民館を利用する専門学生、児童養護施設の児童・生徒など地域とのふれあいの少ない人へ積極的に声をかけ、草刈・頂上の花植え等を行い登山道として整備した。この整備には、子どもから大人まで誰でも関わることが大切と考え、幅広い世代が参画し地区全体で愛着のある高城山を復活させることを目標とした。

8月8日（日）生涯学習推進委員による視察登山を行う

9月12日（日）第1回目の整備…頂上の草刈りを行う

9月20日（月・祝）第2回目の整備…倒木の撤去を行う

10月17日（日）第3回目の整備…竹やぶの刈り取り

12月11日（土）第4回目の整備…花壇づくり



8月8日視察登山



9月12日頂上の草刈



9月20日倒木撤去



12月11日花植え

②三隅中学校の修学旅行事前学習 … <学習としての位置づけ>

6月24日（木）三隅中2年生は、時代の中心にいた三隅氏の歴史を、修学旅行事前学習として、京都の歴史と合わせて学んだ。歴史の授業は、教科書の中だけでなく、ふるさと三隅の中にあるということが実感できたようだ。講師は三隅氏を研究している地域の方が行った。（学校支援地域本部事業）



修学旅行事前学習の様子

③副読本の製作 … <学習としての位置づけ>

次年度以降の修学旅行事前学習に使用するため、京都の歴史と三隅の歴史を交差させた副読本を製作した。セミナーで講師を務めた方を中心に製作委員会を組織し、三隅中学校の先生及び生徒のみなさんの協力も得た。副読本の製作に当たっては、中学生に解りやすくするため、社会科の教科書を参考に字体などの体裁を整え、専門用語も注釈をつけるなどして、難しくなりすぎないように、逆に簡単になりすぎないように社会科の先生と調整を行った。また、中学生からの南朝方と北朝方の武将を色分けしてほしいとの意見も採用した。



12月22日会議も大詰め



添削中の三隅中2年生・教頭先生・3年生のみなさん

④のろしリレー … <体験活動としての位置づけ>

生涯学習セミナーとして、平成14年度より出城ウォークを開催してきた。こののろしリレーはセミナー参加者の発案で昨年度よりはじまった。11月7日(日)、風もなく絶好ののろしリレー日和となり、今回は碓石城(いがらしじょう)が加わり、三隅町一帯での開催となった。三隅高城が栄えた南北朝時代から約7百年、当時の栄華を再びとの想いを込め、高城から、真っ白なのろしが上がると、次々に6か所の出城からのろしが上がった。高城では、各出城ののろしを確認することが出来、三隅氏の拠点であったことを再認識できた。こののろしリレーを通して、地域の連携が深まり、三隅氏への関心も高まった。



針藻城址(はりも)



高城ののろし



鳥屋尾城址(とやお)



風呂の木城址(ふろのき)



茶臼山城址(ちゃうすやま)



河内城址(こうち)

3 事業の成果と課題

(1) 【成果として】

- ① 体験活動と学習の両輪でプロジェクトを進めることにより、一つひとつの活動の意味を確かめることができた。なぜ、高城を整備するのか？なぜ、三隅氏を学習するのか？体験活動によって学習の裏付けができ、また学習によって体験活動の裏付けができ、意識の向上へとつながった。
- ② “子ども達に伝えたい”このキーワードは、大人たちの忙しいという気持ちを変化させた。副読本製作に取り掛かった当初良いものを作るのに最低2年は必要との意見が大半だったが、ぜひ3年生にも伝えたいと意識に変化が起き、半年余りでの作製期間で仕上げた。その分会議の回数と時間が増え委員への負担も増した。さらに大半の委員が仕事を持っており会議は夜に集中したが、出席率も高く完成度の高いものが出来た。
- ③ 昨年ののろしりレーは一部の関係者を中心に行われたが、今年は7つの自治会が連携して開催した。そのため参加者も増え、実行委員会・反省会などを通して自治会間の連携がとれた。反省会では、年々参加出城を増やし将来的には三隅氏の全ての出城で行いたいとの意見が相次いだ。

(2) 【課題として】

- ① 高城整備については、夏の暑さ、スズメバチ、冬の積雪などにより予定していた工程を行うことが出来なかった。そのため参加を呼びかけても中止にすることが多く、ボランティアのみなさんに迷惑をかけた。
- ② のろしりレーの日程と中学校行事が重なり、中学生を巻き込むことが出来なかった。来年度は早い段階での日程調整が必要である。また、規模が大きくなると同時に、消防団との連携も必要である。
- ③ 高城整備、のろしりレーは、本城及び出城にたくさんの人が登るため文化財保護の観点から、文化財係との連携を密にする必要がある。

4 今後の方向性

三隅公民館は、長年にわたり三隅氏をテーマとした学習会及び出城ウォークを開催してきた。三隅氏は公民館事業の柱となっており、これまでに培ってきた人材や知識を有効に活用したひとづくり、まちづくりにつなげて行きたい。そして、小学校の遠足のコースとして高城登山の復活を目指す。副読本は、小学生にも分かるように紙芝居の製作を予定。



碓石城（いがらし）のみなさん



高城整備のみなさん